

2019 年 11 月 15 日

2020 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会 質疑応答（要旨）

（Q1）LMEニッケルの価格の上昇に伴いフェロニッケルの価格が上昇している一方で、NPI（ニッケル銑鉄）の価格は上昇していないので、当社の下期販売数量が減る状況となっているが、この状況が長く続く可能性はあるのか。

（A1）7月・8月からLMEニッケル価格が急激に上昇している。基本的には、LMEニッケル価格に追従した形でNPI価格も上昇している。しかし、その上昇比率はLMEニッケル価格の上昇よりは少し緩やかである。一時、LMEニッケル価格が\$ 17,000～18,000/トンを超えた辺りに、NPIとフェロニッケルの価格差が相当広がった。最近になって乖離の幅がだいぶ縮まっている。来年の1月からインドネシア鉱石の禁輸が再開することで、インドネシアから中国への鉱石輸出が止まり、中国でのNPI生産は縮小していくものと見込んでいる。NPIとフェロニッケルの価格差が縮まっていることに加え、ニッケル需給のタイト化により、フェロニッケル需要も改善傾向に向かうと考えている。現在の状況は一時的なものと考えている。

（Q2）通期の経常利益増減益要因分析のページ（本編資料16ページ）について、ニッケル価格前提は上昇する想定にしている一方で、利益が増えない印象がある。ニッケルの鉱石価格の上昇を織り込んでいるのか。

（A2）一番大きな要因は、上期ではインドネシアの禁輸がまだ発表されていなかった。禁輸が始まるのは来年1月であるが、それまでにニッケル鉱石価格は2倍程度の上昇を想定している。他の要素についても、世界中の動き、エネルギーコストの動向、米中貿易摩擦、ヨーロッパの経済情勢等々の影響があり、利益には直接結び付きにくい状況。

（Q3）今回、年間計画を修正した中で、営業外損益があまり変わっていない印象がある。持分法利益に関しては、ニッケル鉱石価格が上昇する想定であるが、持分法適用会社の鉱山各社の収益はどのように想定しているのか。

（A3）計画を策定している中で、今回「禁輸」というキーワードが出てきた。鉱石価格の上昇も考えられるため、持分法利益のプラス要素にはなると思う。それ以外に、資源国の状況・販売環境・鉱山会社の操業状況等、不透明な部分もあり、予想は大きく変えていない。

（Q4）ニッケル鉱石の調達先について、フィリピン産ニッケル鉱石のウエイトがかなり高まっている。これに伴ってニッケル品位も落ちていると思うが、コストアップに繋がっているのか。

（A4）長期的に見ると、鉱石のニッケル品位の低下傾向は進行している。しかし、当社だけがその環境にあるわけではない。世界中で少しずつ進みつつある。その中で、我々はニューカレドニア産鉱石の調達割合を増加させてきた。

低品位鉱石と高品位鉱石では処理方法に違いがあり、当然価格差もある。当社では、その価格差に応じて、低品位鉱石でも使いこなしている。もちろん同じ価格であれば、低品位の方がコストアップになる。今の段階ではニューカレドニア鉱石の方が、フィリピン鉱石よりも若干高い品位の鉱石を調達できているが、今後も状況を見極めて調達を行う。

（Q5）当社ユーザーのステンレスメーカーは、昨今、ニッケル価格が上がるとどうしてもスクラップの調達量が増えてくると思う。スクラップ調達は足元、5割ぐらいのところも出ていると聞いている。今後もこの状況は続くのか、それとも一時的だと考えておけばいいのか、見方を教えてほしい。

（A5）この件については、我々も非常に興味を持っている。日本を含めて中国を除くステンレス生産各国は、世界的な経済減速の影響で減産傾向にある。ステンレス価格もなかなか上がらず、非常に厳しい状態が続いているため、スクラップの比率をできるだけ上げている。国内でもスクラップ使用比率を上げようと努力しており、韓国、台湾でも同様の動きがある。各社50%から60%弱、欧米は70%から80%のスクラップ比率になる。今のところ、東南アジアエリアでは50%から60%の比率で、なるべく高い使用比率にしたいというところが多い。スクラップの需給予測はなかなか難しく、現在、スクラップ自体は割と問題なく調達できているメーカーもあれば、中には段々タイト化が感じられるという話をしているメーカーもある。数年前にも同じような状況になり、スクラップ供給が少なくなった時期があった。スクラップが手に入らなくなると、フェロニッケル需要が拡大してくる状況となる。スクラップ需給は、今の状況よりは少しタイト化に向かうとは聞いている。

以 上